生活形に依る蜘蛛の分類

植　村　利　夫

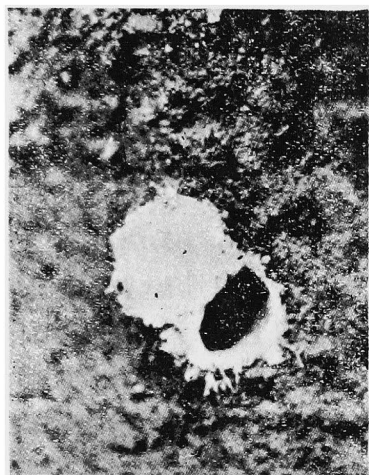
東京市瀧野川區西ヶ原町 310

第一章　序　文

從來の動物分類學は主として形態學上の特徴を以て分類の目安として居た樣であるが，最近生活形 (life fo:m) 又は生活帶 (life zone) 等の言葉を用ひ，動物の分類を生活形態又は生活樣式に依つてなさんとする傾向が現れて來た樣である。小生もずつと以前から斯樣な事を考へて居たのであつて，まことに我が意を得たりと思つて居る。生活樣式に依る分類は死物標本のみを扱つて居る机上の學者には不便であるが，實際自然界に於て生活なしつゝある動物を對稱として研究する學徒には便利であり，又興味深い事でもある。特に蜘蛛類の如く幾多の生活樣式を有する部門に於ては，斯かる分類は極めて必要な事であると思ふ。曾て本會評議員福井博士は，網の形に依つて蜘蛛を分類すれば初步の研究者には便利ではないかと仰しやられた事があつたが，正に其の通りであると小生も考へて居る。今日の動物分類學はより多く机上の死物標本を離れて實際に生活しつゝある動物を研究の對稱としなければならないのではないかと思ふ。

以上の樣な理由で予は今回生活形に依る蜘蛛の分類を試みる事にした。元より思考日尚淺くまだ發表の域に遠して居ないのであるが，一先づ豫報的な意味で紙上に掲げ，諸賢の御批判をいたゞいて立派なものにしてみたいと思つて居る。

第二章　蜘蛛の定住性と流浪性

蜘蛛の習性上最も著しい二大別は定住性と流浪性である。前者は一定の住居

第1圖
地中に造られたトタテグモの住居

又は網を營んで相當長き期間を其所に生活するものでキムラグモ科(Liphistidae) トタテグモ科(Ctenizidae) デグモ科(Atypidae) キノシシグモ科 (Dysderidae) ハグモ科 (Dictynidae) ウヅグモ科 (Uloboridae) ヒメグモ科 (Theridiidae) サラグモ科 (Linyphiidae) ユウレイグモ科 (Pholcidae) ヒラタグモ科 (Uroctidae) コガネグモ科 (Argiopidae) ミヅグモ科 (Argyronetidae) タナグモ科 (Agelenidae) フクログモ科 (Clubionidae) 等の大部分は之に屬し，後者は殆どかゝる定住的な住居又は網を營まず，常に旅から旅を續けて生涯の大部分を送るものでキシダグモ科(Pisauridae) ドクグモ科(Lycosidae) ササグモ科 (Oxyopidae) カニグモ科(Thomisidae) ハヘトリグモ科(Salticidae) アシダカグモ科(Heteropodidae) アハセグモ科(Selenopidae) シボグモ科 (Ctenidae) ワシグモ科 (Gnaphosidae) 等の多くは之に屬する。

第三章　定　任　生　活　目

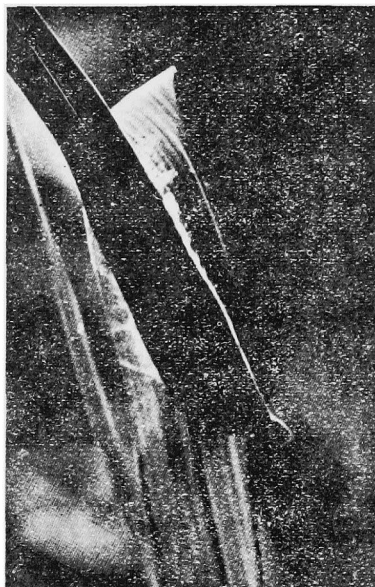
定住性の蜘蛛は又造網性と隱遁性とに區別される。前者は捕蟲を目的とした網を空中に張るもので，コガネグモ科・ヒメグモ科・サラグモ科・ユウレイグモ科・タナグモ科・ウヅグモ科・ハグモ科等の多くの種類は之に屬し 後者は斯くの如き捕蟲用の網を張らず，地中又は樹皮下等に管狀又は袋狀の住居を營んで一生涯の大部分を此の中に過すといふ浮世離れた隱遁者風のもので，キムラグモ科・トタテグモ科・デグモ科・キノシシグモ科・ヒラタグモ科・フクログモ科等の多くの種類は之に屬する。

第一節　隱　遁　生　活　群

本群に屬する蜘蛛類は更に其の住居の形に依つて管狀住居族と袋狀住居族とに區別する事が出來る。前者はキムラグモ科・トタテグモ科・デグモ科等の如く長い管狀の住居を營むもので，後者はフクログモ科・ヒラタグモ科等の如く球狀又は扁平の住居を營むものである。

1. 管狀住居族　管狀の住居を營むものは又更に地中に營巣するものと樹上に營巣するものとの二亞族に分たれる。地中生活亞族に屬する蜘蛛は云ふまでもなくキムラグモ科のキムラグモ (*Heptathela*) トタテグモ科のトタテグモ (*Kishinouyeus*) カネコトタテグモ科 (Acattymidae) のカネコトタテグモ(*Acattyma*) デグモ科のデグモ (*Atypus*) ワスレナグモ (*Calommat.*) 等で．樹幹生活亞族に屬するものはキノシヽグモ科のミヤグモ (*Ariadna*) 及トタテグモ科のキノボリトタテグモ (*Pachylomerus*) 等である。而してキムラグモ・トタテグモ類の住居には入口に戸蓋がついて居りワスレナグモ及デグモの住居は地中にあつて戸蓋なく特に後者の住居は長く地上に出て居り，ミヤグモの住居は樹上に造られ戸蓋を有しない等よりして，直ちに其の何たるやた識別する事が出來る。

2. 袋狀住居族　此の族に屬する蜘蛛にはフクログモ (*Clubiona*) コマチグモ (*Chiracanthium*) ヒラタグモ (*Uroctea*) 等がある。前二者の住居は禾本科植物の葉を折曲げた中又は朽木の樹皮下等に造られ　後者の住居は一錢銅貨大の扁平な白色の袋で天井裏又は壁上等に造られる

第2圖

葉を卷いたエドコマチグモの住居

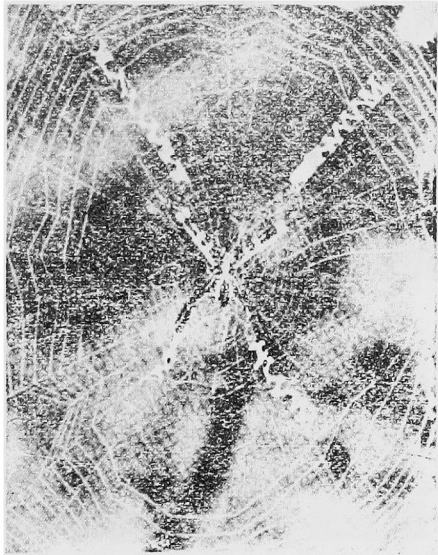
ものである。關西地方にはハマキフクログモが多く，東京附近にはそれよりも大形なエドコマチグモが多い。又ナカムラオニグモ（*Araneus*）も植物の花葉を折り曲げて同樣な住居を造り蟄居して居る事が多いが，これは造網生活群に入る蜘蛛である。

本群は又其の生活する場所によつて地中生活族・樹幹生活族・壁上生活族・葉卷生活族の4族に分つ事が出來る。キムラグモ科・トタテグモ科・デグモ科等は地中生活族に，キノボリトタテグモ・ミヤグモ・フクログモ等は樹幹生活族に，ヒラタグモは壁上生活族に，コマチグモ・ハマキフクログモ等は葉卷生活族に屬する。

第二節　造網生活群

捕蟲を目的とした網を空中に張る蜘蛛獨特の生活群で，コガネグモ科・ウヅグモ科・ハグモ科・サラグモ科・ユウレイグモ科・ヒメグモ科・タナグモ科・等の大部分は之に屬する。而してこれ等の蜘蛛の造る網の形は夫々科に依つて特徵のあるもので，素人でも其の網に依つて大體何類に屬する蜘蛛であるかを見當つけられるものである。今此の群を網の形に依つて次の6族に分つてみる勿論これ位の分け方では全部を網羅する事が出來ないのであるが，大體主なるものを選んでみたに過ぎない。

第3圖　隱れ帶を有するコガネグモの丸網

1. 丸網族　コガネグモ科・ウヅグモ科等の蜘蛛の張る網で　形は先づ丸く平面的であり，縱絲橫

第4圖　ゴミグモの生態

絲から出來て居る。而して此の丸網は又縱丸網及横丸網に區別する事が出來る。前者は殆ど垂直に張られる丸網で後者は水平又は斜に張られる丸網である。シロカネグモ（*Leucauge*）アシナガグモ（*Tetragnatha*）タニガハドヨウグモ（*Meta*）等を除いたコガネグモ科の蜘蛛は大抵縱丸網を張りウヅグモ科の網は殆ど横丸網である。コガネグモ科の横丸網族は多く溪流又は水田の附近に棲んで居る。

これ等の蜘蛛の網には往々にして其の中央にカクレオビと稱する幅の廣い白い絲が樣々の形に附着して居る事がある。これは護身の効あるもので一般にウヅグモ科のカクレオビは渦狀をなして居り，コガネグモ屬（*Argiope*）のカクレオビはX字狀をなして居る。又ゴミグモ屬にも渦卷狀のカクレオビを造るものがある。其の好例はヨツデゴミグモ（*Cyclosa*）である。ウヅグモ科で最も普通なのはトウキヤウウヅグモ（*Uloborus*）で　農家の納屋の天井裏等に多數棲息して居る。

コガネグモ科でカクレオビを有しない網を造るものは極めて多い。先づオニグモ屬（*Araneus*）で人家の内外に普通なのはオニグモ・イヘオニグモ等であり，野外の樹間にはヤマシロオニグモ・ビデヨオニグモ・アヲオニグモ・コゲチヤオニグモ・サツマノミダマシ等が居る。一般にオニグモ屬の蜘蛛は日中は網に居る事が少く大抵其の附近に潛んで居る。其の中でもアヲオニグモ・ビデ

ヨオニグモ等は必ず植物の葉を巻いて其所を住居にして居る。サツマノミダマシはサツマノキに多く形態色彩は其の果實に類似して居る。此の他コガネグモダマシ（*Larinia*）ドヨウグモ（*Meta*）等は山地に見出される普通種であり，稍珍品としてはトゲグモ（*Gasteracantha*）がある。ヂヤラウグモ（*Nephila*）は夏から秋にかけて全盛を極める蜘蛛で，其の絲は本網の前後にあらい絲を引き廻した一見三重式の網である。琉球以南には大形なマダラヂヨラウグモ（*Nephila*）を產する。

前記したヨツデゴミグモ（*Cyclosa*）と同屬の蜘蛛にゴミグモ・シマゴミグモギンメツキ等があり，何れも奇妙な習性として網の中央に塵埃・食滓等を附着する性があるから直ちに他の屬と區別する事が出來る。

2. 皿網族　此の族は皿を伏せた樣な網を張る蜘蛛の仲間でサラグモ科は之に屬する。各地に最も普通なのはサラグモ（*Linyphia*）である。

3. 店網族　タナグモ科の蜘蛛は之に屬する。其の網は夜店を出した樣な形の水平なもので，其の一方に漏斗狀の住居が附屬して居り，店網の上には又迷網が張られて居る。外敵に襲はるれば蜘蛛は巧に其の住居から裏の方へ逃げてしまふ。

本族の蜘蛛で屋內に居住するものはイヘタナグモ（*Tegenaria*）で，野外の生垣上等に最も普通なのはクサグモ（*Agelena*）コクサグモ（*Agelena*）等である。又板壁石垣の間等にはカキネグモ（*Tegenaria*）が居り，朽木の隙間等にはイホグモ（*Coras*）シモフリイホグモ（*Coras*）が棲んで居る。ヤチグモ（*Coelotes*）も此の仲間

第5圖　サラグモの皿網

第6圖　クサグモの店網

に屬する。

4. 迷網族　以上三族の様な規則だつた網でなく不規則網を造る蜘蛛の生活族である。物置・便所の隅等に最も多いのはオホヒメグモ (*Theridion*) でそれ程も多くはないが同様な生活を營んで居るものにイヘユウレイグモ (*Pholcus*)がある。前者はヒメグモ科に屬するもので腹部は球形に近く，後者はユウレイグモ科に屬するもので腹部は細長い。此の點から兩者は直ちに區別は出來るが習性上の相違としては，外敵の近づいた時網をゆすぶつて示威運動をするのは後者で斯かる運動をしないのは前者である。ヒメグモ (*Theridion*) 及ユウレイグモ (*Pholcus*) は野外に見出される。有名なツリガネグモ (*Lityphantes*) も此の仲間である。

5. 覆網族　小形な日覆狀の網を張るものでハグモ科・ハタケグモ科 (Hahniidae) 及サラグモ科等の小形種は之に屬する。而してハグモ・ネコハグモ・ヒナハグモ等のハグモ屬 (*Dictyna*) は斯かる網を葉上に造り，ハタケグモ (*Hahnia*) 及サラグモ科のヒザグモ (*Erigone*) 等は野外の耕作地に造網する。夏の朝小形なハタケグモの覆網に朝露の輝く様は美觀と云ふべきである。

又アリグモ屬 (*Myrmarachne*) の蜘蛛は覆網の如き一時的な住居を葉上に造つて潜んで居る事が多い。此の類の蜘蛛は體形蟻に擬態して居るから直ちに識別する事が出來る。

6. 扇網族　扇網とは丸網の一部を分つた様な形の網で三角形を呈して居るから三角網と呼ばれる事もある。縦絲は僅かに4本内外である。斯かる網を張

る蜘蛛はウヅグモ科のアフギグモ (*Hyptiodes*) である。珍奇な網として有名である。

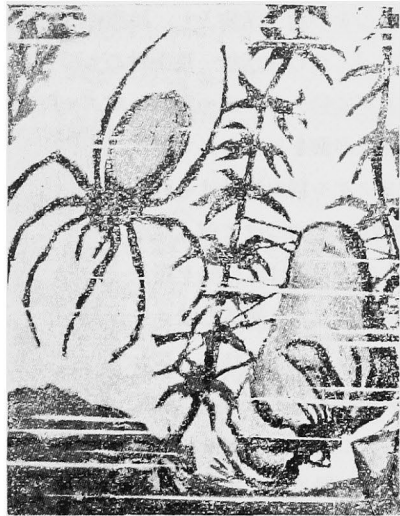
第三節　水 中 生 活 群

ミヅグモ科 (Argyronetidae) のミヅグモ (*Argyroneta*) は造網生活群に入るべきものであるが，其の網は奇抜な事に水中に造られ，其の中に空氣を蓄えて生涯を其の中に生活するが故に，特に此の蜘蛛だけをとりたてゝ水中生活群を設ける事にする。勿論生活群と名づける程多數の種を包含して居るものでなくミヅグモの一種があるのみである。此の蜘蛛はシベリア・中アジア・ヨーロッパ等にも分布し，日本では昭和五年に京都に於て發見され，其の習性も研究せられて居る。

ハシリグモ屬 (*Dolomedes*) の蜘蛛には水邊に生活して居て敵に襲はれたりした場合水中にもぐり，或は水上を疾走する性を有するものはあるが，これは水中に定住するものではないから勿論本群には入らない。

第四節　居候生活群

矢張造網生活群に入るべき蜘蛛であるが，自らは獨立した網を張らずに他の蜘蛛の網の一部に侵入して居候生活をなすと云ふ特殊な生活群である。而して此の群は更に一生涯居候生活をする終生居候族と幼時のみ居候する幼時居候族とに分たれる。

1. 終生居候族　ヒメグモ科のヰサフラフグモ屬 (*Argyrodes*) は全部これで，チリヰサフラフグモ・シロカネヰサフラフグモ・アカヰサフラフグモ・ホソヰサフラフグモ・フタヲヰサフラ

第7圖　ミヅグモの水中生活

フグモ等の種類がある。チリヰサフラフグはクサグモの迷網に多く，シロカネヰサフラフグモはアシナガグモ・コガネグモ・オニグモ等の網に見出される。後者の腹部は銀白色である。

2. 幼時居候族　大形な丸網の端の方に往々にして見出されるものでアシナガグモ（*Tetragnatha*）の幼蛛が最も多く，時にオニグモ（*Araneus*）の幼蛛も見付る事がある。

第四章　流　浪　生　活　目

此の生活目に屬する蜘蛛類は殆ど完全な住居又は捕蟲網を造らずに，一生涯の大部分を狩獵して流浪生活を續けるものであるが，これを更に次の四生活群に分つてみる事にする。

第一節　狩　獵　生　活　群

本群に屬する蜘蛛類は流浪生活目の代表的なもので，常に食餌動物を探し索めて徘徊する仲間である。而してこれ等の中其の運動方法が通常の歩行によるものを歩行生活族とし，跳躍性のものを跳躍生活族と分つ事にする。

1. 歩行生活族　地上性のものが多く歩行は敏速である。キシダグモ科・ドクグモ科・ワシグモ科及シボグモ科等は之に屬する。此の中キシダグモ科の蜘蛛は卵嚢を口に啣えて運び，ドクグモ科の蜘蛛はそれを蛛疣にくつつけて運ぶ性がある。後者は又仔蛛を腹上にのせて走り廻るのでコモリグモとも云はれる。ワシグモ科・シボグモ科の蜘蛛は其の習性ドクグモ科によく似て居るが，塵埃の中等に多く棲んで日光の直射す

第8圖　狩獵に出かけるスヂブトドクグモ

る所には滅多に見付らない。スヂブトハシリグモ (*Dolomedes*) イワウイロハシリグモ (*Dolomedes*) ヤマヂキシダグモ (*Pisaura*) ウヅキドクグモ (*Lycosa*) ハラクロドクグモ (*Lycosa*) ドクグモモドキ (*Anahita*) ワシグモ (*Zelotes*) メキリグモ (*Gnaphosa*) ヒタキグモ (*Leptodrassus*) 等は此の族の代表者である。

2. 跳躍生活族　ササグモ科・ハヘトリグモ科の蜘蛛は之に屬し，何れも其の運動法は跳躍性である。此の中ササグモ科の蜘蛛は野外の禾本科植物上に多く，ハヘトリグモ科の蜘蛛は野外の種々雜多な植物上にも居れば家屋の內外にも多く棲んで居る。ササグモ科ではササグモ (*Oxyopes*) ニシナグモ (*Nishina*) クロフササグモ (*Peucetia*) の三屬が知られて居り，ササグモは最も普通である。

ハヘトリグモ科は極めて種類の多い仲間で，本邦產のものだけでも數百種に達する。其の中シラヒゲハヘトリ (*Menemerus*) チヤスヂハヘトリ (*Plexippus*) ミスヂハヘトリ (*Plexippus*) ヨシイヘハヘトリ (*Yoshiiyea*) 等は人家又は板壁の上等に普通に見受けられる種類で，野外の草上にはネコハヘトリ (*Evophrys*) アサヒハヘトリ (*Jotus*) アヲオビハヘトリ (*Marpissa*) カラスハヘトリ (*Rhene*) ランペルトハヘトリ (*Hyllus*) デーニツツハヘトリ (*Hasarius*) 等が見受けられる。

第二節　伏 兵 生 活 群

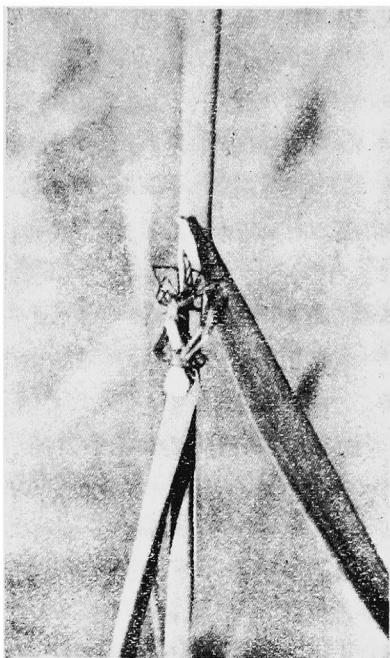
本群の蜘蛛類は常に植物の花又は葉上に潛み，昆蟲等の近づくものあればそれを捕獲して食餌となすもので前群の如く敏活な運動をなすものが少い。其の主なるものはハナグモ (*Misumena*) ワカバグモ (*Oxytate*) アヅチグモ (*Thomisus*) ヤミイロカニグモ (*Xysticus*) エビグモ (*Philodromus*) 等で，エビグモを除く他の全部の步脚は橫行性で前二本が長く，特にハナグモ・カニグモ・アヅチグモ等の體形は蟹の形に似て居る。

第三節　潛 伏 生 活 群

本群に屬する蜘蛛は暗所を好み，屋內のものは主として押入又は物置の隅等

に潜んで居り，野外のものは樹皮・朽木・石下等に潜伏して居る。屋内のものは晝間にも活動する事があるが野外のものは主として夕刻から夜間にかけて活動するものが多い。

1. 屋内潜伏族　押入の隅等から往々にして這ひ出すものにヤマシログモ(*Scytodes*) ヒタキグモ (*Leptodrassus*) 等があり，歩脚は横行性で壁上等に靜止して居る大形種はアシダカグモ (*Heteropoda*) である。

2. 野外潜伏族　老松の樹皮をはぎとると扁平なカニグモ (*Eremita*) が居る。此の蜘蛛は殆ど定住性のものであるがこれと云ふ特別な住居を造つて居ないから流浪生活目に入るべきものである。山地又は濕地の石下・朽木下等には往々コアシダカグモ (*Heteropoda*) が潜んで居る。前記アシダカグモより稍小形である。

第9圖　アシナガグモを捕へたハナグモ

第四節　擬　態　生　活　群

體形を他の動物又は事物に擬態して巧に外敵の眼をくらましつゝ自己の食料を獲得する興味ある生活群である。今日まで本邦から知られてゐる主なるものは鳥糞に擬するトリノフンダマシ (*Cyrtarachne*) の類と昆蟲に擬するアリグモ (*Myrmarachne*) の類とである。前者にはトリノフンダマシ・アカイロトリノフンダマシ・シロオビトリノフンダマシ等があり，後者にはクロアリグモ・アカアリグモ・クマアリグモ等がある。此の他デガバチに擬態したデガバチグモ

(*Castaneira*) も有名であるが，鳥糞に擬する事を以て最も有名なのはフリナラクネ (*Phrynarachne*) で，本邦にも數種を產する。

此の他ハゼノキの果實に擬態したサツマノミダマシ (*Araneus*) 松葉に擬態したヲナガグモ (*Ariamnes*) 等があるが，何れも造網生活群に屬するものである。

生態學的蜘蛛分類檢索表

以上で小生の生活形に依る蜘蛛分類の大要を書き終つたのであるが，これを基礎として次に此の分類の檢索表を揭げてみる事にする。實は以上の分類大要よりも此の檢索表を作る事が本論文の主目的であつたのである。而して實際に生活しつゝある蜘蛛の生態を觀察してみると同一の種類でも其の生態は千種萬樣で中々檢索表を作る事が難しいものである。例へば定住生活目のものでも流浪して居る事があるし，流浪生活目のものでも一時的な住居や網を造つて定住して居るものがあつて，其の何れに屬せしむべきやは隨分迷はされたものである。而し多年採集した經驗から割り出して造網性の蜘蛛でも流浪してゐる事の方が多いものは流浪生活目に入れたり，流浪性のものでも一時的な住居を造るもので定住生活目に入れたりしたものがある。兎に角何回も貧弱な頭を絞つてみたのであるが，結局は不滿足なものになつてしまつた。又成るべく文章を簡潔にしやうと努力した結果說明が不十分な點もある事と思ふ。何卒野外に採集に出かける諸兄は是非一度此の檢索表を使用してみて下さつて，成るべく詳細に不備な點を御注意下さる樣切にお願ひ申上ておく次第である。

1—┬— 網又は住居を營み多く其所に定住する……定住生活目…2
　 └— 網又は住居を營まず多くは流浪性である……流浪生活目…19

2—┬— 網を張らず住居の中に潜んで居る…………隱遁生活群…3
　 ├— 捕蟲を目的とした網を空中に張る…………造網生活群…8
　 ├— 網を水中に張つて其の中に空氣を蓄える……水中生活群…17
　 └— 他の蜘蛛の網の一部を間借りして居る………居候生活群…18

3 ─ 地中に住居を營んで生活して居る……………地中生活族… 4
  ─ 樹幹に住居を營んで生活して居る……………樹幹生活族… 5
  ─ 壁上に住居を營んで生活して居る……………壁上生活族… 6
  ─ 禾本科植物の葉を折り曲げて住居とする……葉巻生活族… 7

4 ─ 住居は袋狀で入口に戸蓋がついて居る………トタテグモ類
  ─ 住居は長い袋狀で戸蓋がついて居ない………デ グ モ 類

5 ─ 住居は袋狀で入口に戸蓋がついて居る………トタテグモ類
  ─ 住居は漏斗狀で戸蓋がついて居ない…………ミヤグモ類
  ─ 住居は嚢狀で老木の朽皮下に棲んで居る……フクログモ類

6 ── 壁上・天井裏等に扁平な所謂壁錢を造る……ヒラタグモ類

7 ─ 主に芒の葉を折り曲げて造り大形である……コマチグモ類
  ─ 芒以外の葉を折り曲げて造り小形である……フクログモ類

8 ─ 網は平面的で丸く樹間・屋内等に造られる…丸 網 族… 9
  ─ 網は皿を伏せた樣な形で樹間に造られる……皿 網 族…12
  ─ 網は店狀で樹枝上又は家屋の隅等に多い……店 網 族…13
  ─ 網は不規則で家屋の隅又は樹間等に多い……迷 網 族…14
  ─ 網は小形な日覆狀で葉上又は地上に多い……覆 網 族…15
  ─ 網は三角形で縱絲は4本までゞある…………扇 網 族…16

9 ─ 網は垂直に張られる事の方が多い……………縱丸網亞族…10
  ─ 網は水平又は斜に張られる事の方が多い……横丸網亞族…11

10 ─ 網は一重で特別な附屬物を有しない…………オニグモ類
   ─ 網は三重で本網の前後に又網がある…………デヨラウグモ類
   ─ 網の中央にはカクレオビがある………………コガネグモ類
   ─ 網の中央に塵埃・食滓等を附着する…………ゴミグモ類

11 ─ 網は大形でカクレオビを有しない……………アシナガグモ類
   ─ 網は小形で多く渦狀のカクレオビを有する…ウヅグモ類

12—— サラグモ科の大部分は之に屬する……………サラグモ類

13—┬ 家屋の隅叉は石垣の間等に多く造られる……タナグモ類
　　└ 生垣等の樹枝上に多く見受けられる…………クサグモ類

14—┬ 外敵が近づけば網をゆすぶつて威嚇する……ユウレイグモ類
　　└ 外敵が近づいても威嚇運動はしない…………ヒメグモ類

15—┬ 濶葉樹の葉縁をかゞつて日覆狀の網を張る…ハグモ類
　　├ 葉上に一時的な住居として薄い網を張る……アリグモ類
　　└ 耕作地等に小形な日覆狀の網を張る…………ハタケグモ類

16—— ウヅグモ科のアフギグモ屬は之である………アフギグモ類

17—— 只一種ミヅグモを產するのみである…………ミヅグモ類

18—┬ 小形な種類で一生涯居候生活をする………ヰサフラフグモ類
　　└ 大形になる種類で幼時のみ居候して居る……アシナガグモ類

19—┬ 屋内・野外等を徘徊して狩獵を事とする……狩獵生活群…20
　　├ 花葉上に潛んで食餌動物の來るを待つ………伏兵生活群…23
　　├ 樹幹・石下叉は家屋内等に潛伏して居る……潛伏生活群…24
　　└ 體は他の動物叉は事物に擬態して居る………擬態生活群…27

20—┬ 運動は步行に依り地上性のものが多い………步行生活族…21
　　└ 運動は跳躍性で地上に居るものが少い………跳躍生活族…22

21—┬ 水邊濕地を好み植物の葉上に居る事もある…ハシリグモ類
　　├ 稍乾燥した山の斜面等に多く見出される……キシググモ類
　　├ 草間叉は塵埃の間等うす暗い所の方が多い…ワシグモ類
　　└ 如何なる所にも棲み卵嚢は蛛疣につける……ドクグモ類

22—┬ 笹叉はススキ等の禾本科植物上に多い………ササグモ類
　　└ 家屋の內外・濶葉樹叉は雜草上に多い………ハヘトリグモ類

23—— カニグモ科の大部分は之に屬する……………カニグモ類

24—— 家屋內の薄暗い所に潛伏して居る……………屋內潛伏族…25

24—— 野外の樹皮下又は石下等に潜伏して居る……野 外 潜 伏 族…26

25— 極めて大形なる種類で夜間活動する…………アシダカグモ類
　　 物置・押入の隅等に潜んで居る事が多い……ヤマシログモ類

26— 多く老松の樹皮下等に潜伏して居る…………カ ニ グ モ 類
　　 野外の石下・朽木下等に潜伏して居る………アシダカグモ類

27— 體は鳥糞に擬態し靜止して居る事が多い……鳥 糞 擬 態 族…28
　　 體は昆蟲に類態し狩獵徘徊性である…………昆 蟲 擬 態 族…29

28—— コガネグモ科及カニグモ科に數種ある…トリノフンダマシ類

29— 植物上に多く體は蟻に擬態して居る…………ア リ グ モ 類
　　 地上に多く體はデガバチに擬態して居る……デガバチグモ類

生活形に依る蜘蛛の分類並に其の檢索表は以上の通りであるが，これは單に生態學的分類の一例に過ぎないのであつて，此の他幾多の方法に依つて分類する事が出來ると思ふ。例へば蜘蛛の生活する環境に依つて屋內性・耕地性・乾地性・濕地性・草原性・林地性等と分類してみるが如きである。斯かる分類は又蜘蛛の分布を考察する上にも一要因を爲すものであると思ふ。

動物の分布も從來の如く單に行政地理的な尺度を以て論じて居るのでなく，動物團體に及ぼす周界の作用を考究してみるならば，前記の如き分布論は妥當でない事を知る事が出來る。例へば蜘蛛類にしても其の分布は土地の高度・光・濕度・溫度等に支配されて居るものである。何れこうした方面を重視した日本の蜘蛛分布論を執筆してみたいと思つて居る。

終に本論文中に使用した蜘蛛の生態寫眞は其の大部分を岸田久吉氏著「蜘蛛の生活」より借用した事を此所に明記し，感謝の意を表する次第である。

(昭和13年6月1日脫稿)